

分野：⑨資源（エネルギー）

総合学習環境講座「食べ物からエネルギーを考える」

環境アドバイザー

谷合 宜明

対象 新座市立八石小学校5年2クラス（52人）

所要時間



45分（計90分）

場所 5年生教室

実施時期

令和2年10月29日

概要

モノづくりにはエネルギーが欠かせず必要になる。
そのエネルギーは化石燃料から取り出している以上、CO₂の排出がついて回る。

プログラムの
ねらい

生活に使われているモノは等しくエネルギーを使って製作されているので、CO₂の排出につながることは避けられない。

プログラムの内容

1. 事例説明
鉛筆の一生は、輸入による黒檀・粘土・木材などからつくられる。
多くの工程でエネルギーを使っているためCO₂を排出している。
2. 給食の牛乳・米・牛乳パックの中からひとつを選んで、初めから終わりまでをコピー用紙に書いて貰い、エネルギーを使っている部分にマークしてもらう。
3. 各人に説明してもらった。

受講者の反応

社会科で学習している消費生活は承知していたが、今回のようにエネルギー消費の観点からは行ってきてないので、今回の学習で深く考えることができた。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要

